

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2022年8月10日

【四半期会計期間】 第106期第1四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

【会社名】 株式会社長谷工コーポレーション

【英訳名】 H A S E K O C o r p o r a t i o n

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 池 上 一 夫

【本店の所在の場所】 東京都港区芝二丁目32番1号

【電話番号】 03(3456)3901

【事務連絡者氏名】 経営管理部門 財務・経理・IR担当  
常務執行役員 瀨 田 良 一

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝二丁目32番1号

【電話番号】 03(3456)3901

【事務連絡者氏名】 経営管理部門 財務・経理・IR担当  
常務執行役員 瀨 田 良 一

【縦覧に供する場所】 株式会社長谷工コーポレーション 関西  
(大阪市中央区平野町一丁目5番7号)  
株式会社長谷工コーポレーション 横浜支店  
(横浜市西区高島二丁目19番3号(日通商事横浜ビル内))  
株式会社長谷工コーポレーション 名古屋支店  
(名古屋市中区栄四丁目1番8号(栄サンシティービル内))  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第105期 第1四半期連結 累計期間	第106期 第1四半期連結 累計期間	第105期
会計期間	自 2021年4月1日 至 2021年6月30日	自 2022年4月1日 至 2022年6月30日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高 (百万円)	213,720	234,088	909,708
経常利益 (百万円)	21,331	19,986	81,871
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	14,675	13,318	54,490
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	17,706	17,384	57,958
純資産額 (百万円)	387,418	422,792	417,667
総資産額 (百万円)	923,679	1,022,447	1,081,907
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	53.34	48.47	198.32
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.9	41.4	38.6

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 当社は「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」制度を導入しております。1株当たり四半期(当期)純利益金額の基礎となる期中平均株式数は、その計算において控除する自己株式に当該信託が保有する当社株式を含めております。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における業績は、当社における建築受注用地の取扱量増加等により売上高は2,341億円(前年同期比9.5%増)、完成工事高の減少に伴う工事利益の減少及び一般管理費の増加により営業利益は200億円(同2.2%減)、経常利益は200億円(同6.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は133億円(同9.3%減)の増収減益となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

(単位：億円)

	建設関連事業		不動産関連事業		サービス関連事業		海外関連事業	
売上高	1,731	(+245)	300	(+9)	483	(+45)	0	(+0)
営業利益	155	(+4)	58	(+6)	15	(+5)	7	(-1)

( )内は前年同期比増減額

### 建設関連事業

建築工事では、当社の土地情報収集力や商品企画力、施工品質や工期遵守に対する姿勢、効率的な生産体制等について事業主から評価を頂いている一方、受注時採算の悪化及び資材労務費の上昇等により、当期の完成工事総利益率は低下いたしました。

当社における分譲マンション新築工事の受注は、首都圏で200戸以上の大規模物件2件を含む合計9件となりました。また、分譲マンション以外の工事として、賃貸住宅3件を受注いたしました。

当社の完成工事につきましては、非住宅物件2件を含む計10件を竣工いたしました。

当セグメントにおいては、当社における建築受注用地の取扱量増加等により売上高は1,731億円(前年同期比16.5%増)、完成工事高の減少に伴い工事利益は減少した一方、不動産利益の増加により営業利益は155億円(同2.6%増)の増収増益となりました。

### 不動産関連事業

連結子会社において分譲マンションの新規引渡しが減少した一方、その他の不動産取扱量が増加したことにより、当セグメントにおいては、売上高は300億円(前年同期比2.9%増)、営業利益は58億円(同10.5%増)の増収増益となりました。

### サービス関連事業

新築マンションの販売受託における引渡戸数は減少いたしましたが、大規模修繕工事・インテリアリフォームにおける修繕工事の施工量、不動産流通仲介事業におけるリノベーション事業の販売戸数、分譲マンション管理におけるマンション専有部及びマンション共有部の工事施工量等は増加いたしました。

当セグメントにおいては、売上高は483億円(前年同期比10.4%増)、営業利益は15億円(同53.6%増)の増収増益となりました。

### 海外関連事業

ハワイ州オアフ島において、新規の戸建分譲事業及び商業施設の開発を進めております。当セグメントにおいては、売上高は0億円(前年同期は売上高0億円)、営業損失は7億円(前年同期は営業損失6億円)となりました。

当第1四半期連結会計期間末における連結総資産は、前連結会計年度末に比べ595億円減少し、10,224億円となりました。これは主に配当金、法人税等の支払に伴い現金預金が減少したこと等によるものであります。

連結総負債は、前連結会計年度末に比べ646億円減少し、5,997億円となりました。これは主に未払法人税等及び仕入債務が減少したこと等によるものであります。

連結純資産は、前連結会計年度末に比べ51億円増加し、4,228億円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したこと等によるものであります。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの対処すべき課題について重要な変更はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における研究開発費は761百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	420,000,000
計	420,000,000

## 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2022年8月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	300,794,397	300,794,397	東京証券取引所 プライム市場	完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数は100株
計	300,794,397	300,794,397		

## (2)【新株予約権等の状況】

## 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

## 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日		300,794,397		57,500		7,500

## (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

## 【発行済株式】

2022年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 23,181,800		権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 277,201,200	2,772,012	同上(注)1,2,4,6
単元未満株式	普通株式 411,397		一単元(100株)未満の株式 (注)1,3,5
発行済株式総数	300,794,397		
総株主の議決権		2,772,012	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」及び「単元未満株式」には、(株)証券保管振替機構名義の株式1,500株(議決権の数15個)及び20株が含まれております。

2 「完全議決権株式(その他)」には、株主名簿上は各社名義となっているが実質的に所有していない相互保有株式が下記のとおり含まれております。

(株)長谷工コミュニティ 200株(議決権の数2個) (株)長谷工ライブネット 100株(議決権の数1個)

3 「単元未満株式」には、株主名簿上は各社名義となっているが実質的に所有していない相互保有株式が下記のとおり含まれております。

(株)長谷工コミュニティ 80株 (株)長谷工ライブネット 20株

4 「完全議決権株式(その他)」には、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式200株(議決権の数2個)が含まれております。

5 「単元未満株式」には、株主名簿上は当社名義となっているが実質的に所有していない株式80株及び当社所有の自己株式75株が含まれております。

6 「完全議決権株式(その他)」には、「株式給付信託(BBT)」の信託財産として所有する当社株式473,600株(議決権の数4,736個)及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式2,492,700株(議決権の数24,927個)が含まれております。なお、「株式給付信託(BBT)」の議決権の数4,736個は、議決権不行使となっております。

## 【自己株式等】

2022年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(株)長谷工コーポレーション	東京都港区芝2丁目32-1	23,181,800		23,181,800	7.70
計		23,181,800		23,181,800	7.70

(注) 「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式2,966,300株は上記自己株式に含まれておりません。

## 2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金預金	266,891	212,985
受取手形・完成工事未収入金等	147,945	122,757
有価証券	576	607
未成工事支出金等	11,379	12,347
販売用不動産	165,818	146,813
不動産事業支出金	176,887	191,731
開発用不動産等	26,027	27,612
その他	14,642	23,036
貸倒引当金	84	80
流動資産合計	810,079	737,807
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物	83,854	84,729
機械、運搬具及び工具器具備品	10,239	10,316
土地	96,325	100,503
リース資産	1,203	1,221
建設仮勘定	13,956	16,819
減価償却累計額	31,396	32,356
有形固定資産合計	174,182	181,232
無形固定資産		
借地権	1,895	1,895
のれん	2,387	2,336
その他	5,810	5,710
無形固定資産合計	10,092	9,941
投資その他の資産		
投資有価証券	43,125	49,891
長期貸付金	2,333	3,486
退職給付に係る資産	20,416	20,809
繰延税金資産	8,918	6,669
その他	13,548	13,399
貸倒引当金	787	786
投資その他の資産合計	87,554	93,467
固定資産合計	271,828	284,640
資産合計	1,081,907	1,022,447

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形・工事未払金等	86,480	76,306
電子記録債務	55,562	57,294
1年内返済予定の長期借入金	31,841	31,205
未払法人税等	16,495	3,508
未成工事受入金	25,472	24,870
不動産事業受入金	38,095	39,532
完成工事補償引当金	5,487	4,983
工事損失引当金	384	379
賞与引当金	5,322	2,405
役員賞与引当金	157	-
その他	85,249	45,352
流動負債合計	350,543	285,834
<b>固定負債</b>		
社債	90,000	90,000
長期借入金	190,000	190,000
訴訟損失引当金	2,484	2,617
株式給付引当金	3,446	3,436
役員株式給付引当金	421	400
退職給付に係る負債	1,446	1,490
繰延税金負債	18	18
その他	25,883	25,860
固定負債合計	313,697	313,822
負債合計	664,240	599,656
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	57,500	57,500
資本剰余金	7,373	7,373
利益剰余金	392,149	392,974
自己株式	34,333	34,100
株主資本合計	422,689	423,747
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	2,358	2,958
為替換算調整勘定	2,180	1,080
退職給付に係る調整累計額	5,205	4,998
その他の包括利益累計額合計	5,027	960
非支配株主持分	5	4
純資産合計	417,667	422,792
負債純資産合計	1,081,907	1,022,447

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
<b>売上高</b>		
完成工事高	114,539	112,032
設計監理売上高	724	929
賃貸管理収入	20,556	21,002
不動産売上高	73,495	95,731
その他の事業収入	4,405	4,395
売上高合計	213,720	234,088
<b>売上原価</b>		
完成工事原価	94,821	92,858
設計監理売上原価	496	454
賃貸管理費用	15,849	16,348
不動産売上原価	62,670	83,541
その他の事業費用	3,664	3,607
売上原価合計	177,499	196,808
<b>売上総利益</b>		
完成工事総利益	19,719	19,174
設計監理売上総利益	228	475
賃貸管理総利益	4,708	4,654
不動産売上総利益	10,825	12,189
その他の事業総利益	742	788
売上総利益合計	36,221	37,281
販売費及び一般管理費	15,826	17,329
営業利益	20,395	19,952
<b>営業外収益</b>		
受取利息	22	19
受取配当金	993	206
その他	348	290
営業外収益合計	1,363	515
<b>営業外費用</b>		
支払利息	365	429
持分法による投資損失	0	0
その他	62	52
営業外費用合計	428	481
経常利益	21,331	19,986

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	72	-
補助金収入	-	45
特別利益合計	72	45
特別損失		
固定資産処分損	6	14
固定資産圧縮損	-	41
特別損失合計	6	55
税金等調整前四半期純利益	21,397	19,976
法人税、住民税及び事業税	3,750	4,708
法人税等調整額	2,972	1,951
法人税等合計	6,722	6,659
四半期純利益	14,675	13,317
非支配株主に帰属する四半期純損失( )	0	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	14,675	13,318

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
四半期純利益	14,675	13,317
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	62	600
為替換算調整勘定	2,904	3,260
退職給付に係る調整額	189	207
その他の包括利益合計	3,032	4,067
四半期包括利益	17,706	17,384
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	17,707	17,385
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度へ移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務(保証債務等)

保証債務 下記のとおり債務保証を行っております。

(銀行等借入債務)

前連結会計年度 (2022年3月31日)			当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)		
提携住宅ローン利用顧客	1,728件	61,773百万円	提携住宅ローン利用顧客	340件	11,848百万円
不動産等購入口ーン利用顧客	2件	32	不動産等購入口ーン利用顧客	2件	30
有料老人ホーム土地建物所有者	1件	280	有料老人ホーム土地建物所有者	1件	274
計		62,084			12,152

2 当社は、運転資金の安定的かつ機動的な調達を行うため、取引金融機関5行の協調融資方式によるコミットメントライン契約を締結しております。

この契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2022年6月30日)
コミットメントライン 契約の総額	63,000百万円	63,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	63,000	63,000

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年6月30日)
減価償却費	1,404百万円	1,490百万円
のれんの償却額	51	51

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

## 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	9,786	35.00	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金107百万円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

## 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	12,493	45.00	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金

(注) 配当金の総額には、「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式に対する配当金133百万円が含まれております。



(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業			
売上高							
外部顧客への売上高	142,917	28,877	41,926	0	213,720	-	213,720
セグメント間の 内部売上高又は振替高	5,711	242	1,798	-	7,752	7,752	-
計	148,628	29,120	43,724	0	221,472	7,752	213,720
セグメント利益又は セグメント損失( )	15,078	5,228	963	551	20,718	323	20,395

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 323百万円には、セグメント間取引消去607百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 931百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- 2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業			
売上高							
外部顧客への売上高	157,989	29,862	46,236	1	234,088	-	234,088
セグメント間の 内部売上高又は振替高	15,159	115	2,029	-	17,303	17,303	-
計	173,149	29,977	48,265	1	251,391	17,303	234,088
セグメント利益又は セグメント損失( )	15,472	5,778	1,479	683	22,047	2,095	19,952

(注) 1 セグメント利益又はセグメント損失( )の調整額 2,095百万円には、セグメント間取引消去 940百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 1,155百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- 2 セグメント利益又はセグメント損失( )は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業	
売上高					
建設工事等	103,502	-	-	-	103,502
設計監理	724	-	-	-	724
不動産販売、分譲等	38,652	26,907	-	-	65,559
大規模修繕・内装工事等	-	-	11,038	-	11,038
マンション建物管理、 マンション賃貸管理等	-	-	15,324	-	15,324
分譲マンション販売受託、 流通仲介・リノベーション等	-	-	7,936	-	7,936
その他	4	-	785	0	789
顧客との契約から生じる収益	142,883	26,907	35,083	0	204,873
その他の収益	34	1,970	6,843	-	8,848
外部顧客への売上高	142,917	28,877	41,926	0	213,720

当第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	建設 関連事業	不動産 関連事業	サービス 関連事業	海外 関連事業	
売上高					
建設工事等	98,257	-	-	-	98,257
設計監理	929	-	-	-	929
不動産販売、分譲等	58,767	18,489	-	-	77,256
大規模修繕・内装工事等	-	-	13,774	-	13,774
マンション建物管理、 マンション賃貸管理等	-	-	15,957	-	15,957
分譲マンション販売受託、 流通仲介・リノベーション等	-	-	9,023	-	9,023
その他	4	-	798	1	803
顧客との契約から生じる収益	157,957	18,489	39,553	1	216,000
その他の収益	32	11,373	6,684	-	18,089
外部顧客への売上高	157,989	29,862	46,236	1	234,088

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	53円34銭	48円47銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(百万円)	14,675	13,318
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	14,675	13,318
普通株式の期中平均株式数(千株)	275,121	274,769

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 記載株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。  
3. 「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式を、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。当該自己株式の期中平均株式数は前第1四半期連結累計期間25,672千株、当第1四半期連結累計期間26,024千株であり、このうち「株式給付信託(BBT)」及び「株式給付型ESOP」の信託財産として所有する当社株式の期中平均株式数は前第1四半期連結累計期間2,990千株、当第1四半期連結累計期間2,842千株であります。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

該当事項はありません。

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年 8月10日

株式会社長谷工コーポレーション

取締役会 御中

### EY新日本有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	鈴木裕司
--------------------	-------	------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	齋藤祐暢
--------------------	-------	------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	吉田靖史
--------------------	-------	------

#### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社長谷工コーポレーションの2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社長谷工コーポレーション及び連結子会社の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

#### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。